

令和4度(令和3年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票

A:目標を大きく上回った(120%以上) B:目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C:目標を下回った(60%以上90%未満) D:目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価指標	年度間目標	R3年度実績値	内部評価			外部評価	
基本方針	項目				成果及び課題		評価	総合評価	委員の意見(概要)
(1) 収集・保存	①作品の購入及び寄贈作品の受入	作品の購入点数	1点	26点	○基金を活用して前衛書作品1点を購入した。当館の収集の核である瑛九と同時代の美術の動向を探る上で重要な作品である。また、一般財源を活用して購入したシュルレアリスムの版画集1件(作品点数25点)は、初収蔵となる作家が15名含まれており、既収蔵作品との比較展示等、作家をより深く理解するために活用が期待できるものである。 ●今後も引き続き調査を行うが、近年美術市場の価格は高騰しており、限りある基金の有効活用のため、購入可能な作品の積極的な情報収集と精査が必要である。	A	B	■収集に関して、円安で購入が厳しい状況にあるが、調査研究に裏付けされた攻めの姿勢で収集をお願いしたい。	B
		寄贈作品の受入点数	1点	3点	○購入作品に合わせた寄贈の申し出と、県内の作品所有者からの寄贈申し出があり、調査を行った。いずれもコレクション研究の充実を図る上で有用な作品と判断し、書作品1点と版画作品2点を収集した。 ●作家や所有者の高齢化に伴い、寄贈の相談を受けることがあるが、情報提供を受けたものや、未調査のものについては、検討の上、適宜対応してい。	A			
	②作品の修復等	作品の修復又は額装	1点	1点	○日本画「錦帯橋」(作者:益田玉城)の専門業者による汚損の除去または軽減、絵具の剥離・剥落止めを行った。 ○未額装の作品25点の額装(6作品はマットのみ)を行った。 ●予算内で行える範囲で優先順位をつけて実施しているため、修復が必要な複数の作品を保留にしている。	B			
	③保存環境の整備	外部委託による環境調査	2回	2回	○害虫菌モニタリング及び燻蒸を計画的に実施した。 ○環境調査の結果及びその後の改善案提案により、日常管理の徹底を図ることができた。特に作品に近い場所である収蔵庫前室、企画展示室廊下などの整理・清掃に注意を払い適切な環境を維持できた。殺虫剤など購入し、特に侵入が多い箇所に設置等することで、駆除及び清浄化を図ることができた。	B			
燻蒸(新収蔵及び館外使用後の作品に限る)		2回	2回	●施設のお老朽化により、虫の侵入経路が増えており、補修・修繕が必要な箇所が出てきた。また、雨漏りが起こる箇所があり、対応できるものはしているが、予算獲得が必要となってくるものも多いため対策が急がれる。 ●燻蒸設備の調整に時間がかかる部分があった。空調設備が万全ではないが、廊下及び燻蒸庫周辺を暖めておいてもらうことでスムーズに運営することができる。R4年度メンテナンスを控え代替措置を講じる必要がある。	B				
(2) 調査研究	①研究紀要の発行等	研究紀要の発行やインターネット等での公開	1回	0回	○研究紀要の形式としては、自主企画展「生誕110年記念 瑛九展」の調査研究の成果等を、ホームページ上での既公開の過去2年分の原稿とあわせ、令和4年度末に発行する計画である。 ●印刷・製本仕様の紀要作製・発送・発表の在り方について検討の余地もある。	C	B	■調査研究について、7名の作家の情報収集・調査をしたということだが、これは令和3年度に限ったもののなか。調査対象の決め方と継続性について教えていただきたい。	B
	②郷土作家等の情報収集及び作品調査	情報収集及び作品調査	7件	7件	○特別展や作品収集に関連して、郷土作家を含む7名の作家(松井富民夫、瑛九、貴嶋ユミ、根井南華、安田李仲、加藤正、白髪一雄)について訪問等による情報収集及び調査を行った。 ●継続して調査を行う人員や時間の確保などの課題がある。	B			
	③作品解説等の執筆	作家・作品調査の作成	14件	14件	○新収蔵作品や展示頻度の高い作品を中心に、作家・作品等の解説を執筆し、美術館収蔵作品データベースや展示キャプションなどに活用した。 ●担当業務の回数を縫っての調査・執筆となるため、調査内容等にやや不十分なものもある。調査研究のための時間確保が長期的な課題である。	B			
	④講義・鑑賞会等の実施	講義・鑑賞会等の実施	10回	17回	○新型コロナウイルス感染症拡大の状況が比較的落ち着いている時期に、感染防止対策を講じながらギャラリートーク等を実施できた。 ●感染症拡大防止のため、イベントなどを中止した。	A			
(3) 展示	①コレクション展の開催	コレクション展の開催	4回	4回	○年間4回の展示替えにおいては、各展示室で様々なテーマや切り口を工夫して魅力ある展示空間を提供しており、概ね良い意見や感想をいただいている。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、毎月、対話形式で実施していたギャラリートークを中止とした。	B	B	■コロナ禍で自主企画の瑛九展が3000人以上はかなりの努力だったと思われる。たくさん資料が所蔵しと展示されていたので、これをきちんと整理にまとめ、さらに継続的に展示を考えてほしい。	B
		年間鑑賞者数	28,000人	21,134人	○鑑賞者数については、5月10日から5月31日までの22日間の臨時休館をはじめ、新型コロナウイルス感染症拡大が大きく影響したものの、当年度のコレクション展の鑑賞者総数は昨年度より14%上回る実績(約2,564人増)であった。 ○例年、多くの家族連れで賑わうコレクション展第2期の「たのしみ美術館」の鑑賞者は5,709人で、前年度より919人上回った。 ●コロナ禍の影響は読み切れない部分があるが、年度間目標を超えられるように、鑑賞者の興味を引く様々な工夫や手立てを行うとともに、調査・研究の発表の場としてもより深みができるように努めたい。	C			
	②特別展の開催	特別展の開催	3回	3回	○特別展「本城直季(un)real utopia」、「生誕110年記念 瑛九展-Q Ei表現のつばさ」、特別展示「国文祭・芸文祭みやざき2020(特別応援プログラム) 皇室と宮崎～宮内庁三の丸尚蔵館収蔵作品から～」を開催した。 ○「本城直季」展では、写真家の本城直季初の大規模個展として、これまでの作品を展示するとともに、宮崎県を被写体とした本展のための特別な撮り下ろし作品など約200点を紹介した。 ●新型コロナウイルス感染症拡大により、特別展「ホキ美術館名品展 一写真 追真の存在感」が開催中止となり、その他にも中止したイベントがあった。 ○自主企画展「生誕110年記念 瑛九展」では、宮崎県出身の画家、瑛九の生誕110年を記念し、生涯をかけて挑んだ「表現すること」への飽くなき探求の軌跡を、当館のコレクションから油彩画など約200点の作品に加え、特別展示として個人が所蔵する作品58点など多彩な作品や膨大な資料とともに紹介した。 ○特別展示「皇室と宮崎」展では、宮内庁三の丸尚蔵館の収蔵品の中から優美な皇室御慶事の品々や本県ゆかりの作品などを、前期と後期に約30点ずつ紹介した。皇室と宮崎の縁を感じる展覧会となった。 ●当年度に開催した3つの特別展等の総鑑賞者数は、前年度開催した3つの特別展の実績より、約30,000人ほど下回った。感染症拡大防止対策による展覧会の開催中止や、関連イベントの中止・や縮小等の措置も講じたため、年間鑑賞者は目標を下回った。	B			
		年間鑑賞者数(全特別展合算)	50,000人	13,183人		D			
		自主企画展等(特別展示を含む)の開催	特別展のうち1回	1回		B			
	③館外展示の実施	館外展示の開催	2回	2回	○「旅する美術館・わくわくアート」として、三股町と都市の2会場(各6日間)で収蔵作品21点(各会場18点)を展示・紹介した。新型コロナウイルス感染症の影響や、会場が分かりづらかったこともあり都城会場で観覧者数は少なかったが、各会場及び美術館でのイベントも合わせると1,700人の参加があった。 ○幼児から年配の方まで幅広い年齢層の方が鑑賞され、アンケートには郷土作家の作品やピカソの作品が見られたことへの喜びや、版画の技法に触れた感想などが記されていた。時間をかけて熱心に鑑賞される姿も多く見られ、好評であった。 ●イベントが重なる日はスタッフの人員確保が難しかった。また、都城会場で監視員の配置の協力が得られず、館の職員や美術館サポーターの方々に依頼して何とか対応することができた。また、両会場とも照度の調節ができず、特に都城会場は遮光が完全にはできなかったため、短期間とは言えかなり明るい環境での展示となった。イベントの精選、監視人員の確保、会場の条件の明確化が今後の課題である。	B			

令和4度(令和3年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票

A:目標を大きく上回った(120%以上) B:目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C:目標を下回った(60%以上90%未満) D:目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評価 指標	年度間 目標	R3年度 実績値	内 部 評 価			外 部 評 価	
基本方針	項目				成 果 及 び 課 題		評価	総合 評価	委員の意見(概要)
(4) 教育普及	①成人向け講座等の実施	成人向け講座等の参加者	200人	60人	○「わくわくアート」での招聘作家によるアートークは、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施した(37人参加)。 ○ワークショップ「傘でアート!」、「美術館の凸凹でアート! ?」は感染症対策のため、従来の自由参加型から募集型に切り替えて人数を減らして実施した(23人参加)。 ●県外講師を招聘する実技講座「染色」と「磁器」は、いずれも新型コロナウイルス感染症の影響を受けて開催中止とした。 ●第2回みやざき総合美術展の講演会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて開催中止とした。		D	C	■Facebookは定期的に更新されており、楽しい様子がかがえる。さらにワークショップに参加した方の作品がSNSに上がって、学芸員のコメントが入ると、参加者はより励みになると思う。 ■環九の点描の技法を小中学校の授業などで体験して、作品を作っていくような取り組みが県下で実施できないか、例えば美術館の学芸員がSNSで点描の作品を発信する、それを教室で見た生徒が作成する、その作品がホームページにある。美術館に展示されるなど、県民が皆環九を知り、誇れる画家となるような経験・体験ができる活動を期待する。 ■総合評価のCはコロナ禍の状況を踏まえると厳しい評価のように思われ、Bでも良いのではないかと。 ■県内に普及活動をするためには、小・中・高等学校の教員の初任者研修を美術館で行うべきである。
	②子ども向け教室等の実施	子ども向け教室等の参加者	500人	485人	○前年度、新型コロナウイルス感染症対策のために変更した内容・形態が好評だった鑑賞教室を定番化したところ、毎回一定の参加があり、リピーターも増えてくなど引き続き好評であった。ウィズ・コロナの新たな鑑賞教室の形として確立・実施できた。 ●年間8教室(計68日)を計画していたが、感染症拡大により一部の教室を中止したり、材料セットの配付に変更したりしたため、参加者目標を下回った。 ●感染症対策として、全ての教室を短時間でできる内容や材料セットの配布でも対応できる形に変更したため、内容に深まりが足りない教室もあった。		B		
	③美術図書・映像施設等の充実	図書・映像施設の利用者	2,500人	1,279人	●美術図書室、アートシアターとも新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館や閉室した期間があり、目標を大きく下回る利用者数となった。(7校 434人) (図書室利用者1,113人、アートシアター利用者 166人) ●アートシアター、映像ブースについては機材の不調があり、使用頻度も高くないため抜本的な見直しが必要である。 ●美術図書室については、感染症対策のため入室人数や滞在時間の制限、他館らし等の設置の制限を行っており、利用者のニーズに十分に答えることができなかった。		D		
	④館外での教室・講座等の実施	館外教室・講座等の参加者	200人	490人	○中部教育事務所管内の小中学校、特別支援学校を訪問し、所蔵作品等を紹介する映像資料や本物の所蔵作品を使った移動鑑賞教室を実施した。(7校 434人) ○「旅する美術館」での技法体験は、新型コロナウイルス感染症対策として参加人数を絞って実施した(16人参加)。 ○「わくわくアート」での作家によるワークショップは、参加人数を絞り、実施回数を増やして実施した(40人参加)。 ●作品輸送用の公用車に不具合が生じ、その都度調整等を行った。映像用の機材も老朽化している。		A		
(5) 広報・発信	①広報誌の発行	広報誌の発行	3回	3回	○新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止になるイベントもあったが、記事の差し替え等に対応して予定通り年3回発行することができた。 ●館内配布分の持ち帰り数は、発行時期に開催中の展覧会に左右されるため、残部が多く出ることがあった。特別展の中止の影響もあったが、展覧会の関連記事が掲載されていることを分かりやすく掲示する、インフォメーションやもぎり等で直接渡して見てもらうなどの工夫も必要である。		B	B	■特に意見なし
	②ホームページ等の充実	ホームページのアクセス数	180,000回	178,928回	●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、特別展が中止となった6~7月のアクセスの落ち込みもあり、アクセス数は目標に届かなかった。		B		
		SNSによる情報発信	100回	124回	○新型コロナウイルス感染症拡大によるイベントの中止や変更もあったが、目標を上回る情報発信を行うことができた。 ○イベントの中止や内容の変更など、急な告知にも柔軟に対応できた。 ●現在はFacebookのみ運用しているが、利用者が限られるため他の媒体の運用も検討する必要がある。		A		
	③関係機関への情報提供	プレスリリース	10回	10回	○コレクション展や特別展の開催ごとに、また、アウトリーチ事業等について情報提供を行った。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とした事業も多かったため、目標値にとどまった。		B		
		情報誌等への情報提供	140回	143回	○定期的な情報提供のほか、単発の提供依頼もあり、ほぼ目標通りの発信ができた。 ●定期的な提供を行っている媒体であっても、効果的な広報につながるか疑問を感じるものもあるため、今後も継続して提供をすべき媒体や提供内容の整理が必要である。		B		
	④広報資料の提供	広報資料の提供(発送)	5回	5回	○タイムリーに広報物が提供できるように計画的に広報資料の発送を行うことができた。 ○発送計画に利用するため、各回の重量等を記録し、次年度計画に役立てることが出来た。 ●予算や人員、運送会社との契約等により、発送にかかる業務量が増えて煩雑になっている。また、単価契約の場合、1回目の発送が大型連休付近の設定になると間に合わなくなることが続いており、各課全体を通して確実な連携が必要である。発送回数を減らして費用と業務を軽減するために、発送時期を精査して行う。		B		

令和4度(令和3年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評 価 指 標	年度間 目標	R3年度 実 績 値	内 部 評 価			外 部 評 価	
基本 方針	項 目				成 果 及 び 課 題		評価	総合 評価	委員の意見(概要)
(6) 連携・参画	①地域におけるアウトリーチ事業の実施	地域でのアウトリーチ事業の実施回数	2回	2回	○アーティストを招聘し、2つの自治体(都城市、三股町)で、開催地の自然や文化などから着想を得たアニメーション等の制作と上映及びアーティストの過去作品を紹介する等の関連展示を行った。 ○アーティストは早期に現地取材を行い、地元の人材も起用した作品を制作した。完成した作品は多くの県民に観ていただけた。作品は、後日、「映文連アワード 2022」にて文部科学大臣賞を受賞するなど質の高いものであった。 ○ワークショップ等の関連事業では、人数制限等を行いながらも実施できた。 ○広報や集客において、各自治体ともホームページや広報誌等で告知を行うなど、積極的に協力していただいた。	B	B	■特に意見なし	B
		他館・施設との連携による取組	3件	3件	○県総合博物館、県立図書館、県立芸術劇場との4館見学ツアーは1件で104人の参加があった。 ○宮崎県立文化施設6館イベント案内パンフレットを年間2回発行し、告知に努めた。 ○都城市立美術館と霧島アートの森との連携会議を実施し、各館の運営状況について情報交換を行った。	B			
		学校向け美術教材の貸出	9件	9件	●新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、これまで各地域への美術教材貸出の拠点として取りまとめをお願いしていた県造形教育研究会事務局及び県内各地の代表校への依頼は中止した。 ○各拠点への貸出は中止したが、貸出しを希望する学校からの直接の申込みには引き続き貸出対応を行った。 ○美術教材(アートカード、アートボックス)の総点検を行い、メンテナンスを行うことができた。 ●劣化が激しく差し替えが必要な教材も多々ある。今後リニューアルを検討する必要がある。	B			
		美術館サポーターの活動	延べ70人	延べ79人	○全3回の全体会議を新型コロナウイルス感染症対策を講じて開催し、情報交換や活動内容等についての協議を深めることができた。 ○活動の休止等は、事前に余裕をもってサポーターへ周知することができた。 ○前年度までは新聞スクラップや広報発送など個人で行える活動が主だったが、感染症対策を講じて子ども美術教室等にも参加することができた。 ●感染症拡大の影響が今後も断続的に生じる可能性や、引き続き感染症対策を講じていく必要があることから、これまでと同様の活動ができないことが予想される。個人での参加・活動を基本とするなど、活動内容や場所、参加人数などに配慮し、安全に活動できる手立てを講じていく必要がある。	B			
	③創作・発表の場の提供	インターネット等の受入れ	1件	1件	○キャリア教育に係る就業体験の場として、生徒の実習を受け入れた。展示室やインフォメーションでの来館者対応業務の補助や講座等の準備、備品等の確認や補修など、様々な体験実習を提供・実施した。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、受入れを承認していたほとんどの中学校、高等学校から中止の判断によるキャンセルがあり、実施は1校のみであった。	B			
		アトリエ利用者数	150人	154人	●新型コロナウイルス感染症拡大による臨時休館や感染症対策に伴う閉室のため、開放日自体が例年に比べると少なくなった。また、開館時も感染症対策のため、貸出中止や使用時の人数制限をしたこともあり、目標値は上回ったものの利用者数は伸びなかった。 ○開放日はほぼ利用者があり、稼働率は高かった。利用者のリピート率も高く、定期的に制作を楽しむ様子が見られた。 ○アトリエで制作した作品を、「みやざき総合美術館」に出品した利用者もあり、利活用の広がりが生まれた。	B			
		県民ギャラリー稼働日数	180日	166日	○利用者に対して搬入時の説明を丁寧に行い、けがや事故等のトラブルを未然に防ぐことができた。 ●施設の老朽化により、搬入口の扉の開閉に苦慮することがあった。 ●新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館や主催者による内定取り消し(キャンセル)が多数あり、県民の利用は例年より少なかった。	B			
		応募点数	1,200点	1,172点	○高校生の出品の増加や各部門における入選など、若者の関心の高まりや活躍が見られた。 ○75歳以上の出品者が全体の25%を占めるなど、生涯学習の発表の場としても生かされている。 ●技法や手法、ジャンルにとらわれない自由な芸術表現作品を募集する「自由表現部門」への出品が限定的である。企画委員や外部機関等との連携をより密にし、さらなる情報発信や新たな出品者の開拓に努めていく。	B			
		④みやざき総合美術展の開催	鑑賞者	6,500人	6,052人	○前年度(第1回展 7,244人)から1,192人の減となっているが、前身の2つの展覧会(宮日美展、県美展)の観覧者数やコロナ禍という状況を鑑みると、目標値には届かなかったものの、6,000人を超える来館者があったことは一定の評価ができるものとする。 ○表彰式は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として大賞受賞者のみの出席による小規模なものとなったが、開催することができた。 ●感染症拡大防止のため、記念講演会や関連イベントを実施することはできなかった。 ●来館者アンケートの回答者のうち60歳以上の割合は52%で、若い世代の観覧者数が少ない状況がうかがえる。			

令和4度(令和3年度実績) 宮崎県立美術館運営状況評価票

A: 目標を大きく上回った(120%以上) B: 目標を概ね達成した(90%以上120%未満) C: 目標を下回った(60%以上90%未満) D: 目標を大きく下回った(60%未満)

運営ビジョン		評 指 標	価 標	年度間 目標	R3年度 実 績 値	内 部 評 価			外 部 評 価	
基本 方針	項 目					成 果 及 び 課 題		評価	総合 評価	委員の意見(概要)
(7) 人材 育成	①職員の 人材 育成等	県外研 修・視察 への派 遣割合	50%	50%	○オンライン形式も増えているが、業務的に参加可能で必要と判断される研修等にはできるだけ参加し、情報共有に努めた。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、県外における実地研修等が減少したままで、研鑽の機会が少ない。		B	B	■特に意見なし	B
	②博物 館実習 の受入	実習希 望者の 受入割 合	100%	100%	○新型コロナウイルス感染症拡大もあり、実習の希望は1校から3名のみと少なかった。希望者全員を受入れて8日間の日程で実施することができた。 ●感染症拡大防止の対策のため、一部の講義や演習等で変更した内容もあった。 ●博物館実習の受入れに関する情報公開の在り方については検討の余地がある。		B			
(8) 管理・ 運営	①施設・設 備の適 切な管 理	防災研 修及び 避難訓 練の実 施	100%	100%	○職員と専門員及び監視員を対象として、メンテナンス休館期間を利用し、自衛消防訓練を行った。館内消防設備や各種設備、避難経路等の確認を行うとともに、通報及び誘導訓練を実施した。 ○消火器の操作方法について委託業者から説明を受け水消火器を利用した消火訓練を実施した。 ○特別展における監視員に対し、緊急時に備えた対処要領について説明資料を配付した。		B	B	■特に意見なし	B
		検査等 の指摘 事項へ の対応	100%	100%	○監査等における指摘事項は特段なかった。 ○自動火災報知設備、非常用放送設備更新の設計委託を行った。開館当初導入された設備等において、老朽化等により更新が必要なもののについては、引き続き検討を行っていくこととする。 ○経年劣化により故障したものについて適宜修繕を行うとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、和式トイレ6基の洋式化を行った。		B			
	②施設 の積極 的な活 用	施設見 学者の 受入れ	4,000人	1,805人	○修学旅行の訪問先として、来館する県内学校が増えた(12校 297人)。自主研修時の見学先となることも多く、大人数でまとまった来館ではなく、一定時間内にグループで来館することもあったが、学校や旅行者とも連携しながら団体の受け入れを行った。 ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館や、展示室に入室可能な人数の制限、対話型鑑賞を中止したこと等の影響もあり、学校団体、一般団体の受入れは減少した。		D			
		アート ホールの 活用	270人	261人	○ユニークベニュー利用の団体へ開催中の展示会を案内し、鑑賞者数増に努めることができた。 ●新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館や感染症拡大を警戒した主催者の利用キャンセル等も複数あり、県民の利用は例年より少なかった。		B			